

彩の歳時記

平成二十五年

八月

夏日山中 李白

懶搖白羽扇

裸袒青林中

脱巾掛石壁

露頂灑松風

白羽扇を揺かすに懶(うろうろ)し

裸袒す 青林の中

巾を脱ぎて石壁に掛け

頂を露わして松風に麗(うつく)く

「白鳥の羽の扇子を動かすのもおつくだ、青い木の茂った林中で、肩肌脱ぎになる。頭巾も取り、石の壁に掛けると、頭の上に松風が吹き抜けていく。」

青々とした木々の茂る山中で片肌を脱ぎ、風を追い求める李白の姿が目に浮かびます。中国詩歌史上最高の詩人、李白(うはく)【701~762】は奔放で変幻自在な詩風から「詩仙」、十一歳年下で同時代の杜甫(とほ)【712~770】は、中国文学史上最高の詩人「律詩」を大成させ「詩聖」と称されました。二人は「李杜(りど)」と併称され、七四四年、洛陽で偶然出会ったといわれています。

自然の厳しさの中で詩歌が詠まれ、時を越えて生き続けています。「都合よく自然環境を変えてゆく」のではなく、古人の「心の世界遺産」を護り続けたいものです。



八月の異称

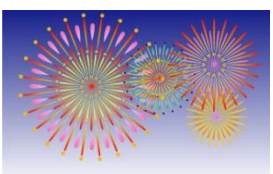
葉月(はづき)。葉落ち月・穂張り月：初来月。英語の(August) はローマ皇帝 Augustus (アウグストゥス) に由来。

花火の季節

おもしろうてやがて寂しき花火かな (作者不詳)

八月の暦

一日 八朔 八月朔日 家康が初めて江戸城に入城したとされる日。江戸時代は正月に次ぐ祝日。果物のハツサクは、江戸時代末に尾道市因島いんのしまで発見、栽培された。明治期に八朔の頃に食べられたことから命名。



八月の主な花火大会
一日 みなどみらい
三日 板橋・江戸川・柏・我孫子 市川・松戸・上尾 兼張
十日 東京湾大華火祭
十七日 神宮外苑

六日 広島原爆忌

世界初のウラン型原子爆弾 (Little Boy) の広島市への投下による被爆者は二十五万人(内、十四万が死亡)といわれる。世界平和を祈念するアピールが宣言され、燈籠流しが行われる。

七日 立秋

【二十四節気】秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる

九日 長崎原爆忌

ブルトニウム原子爆弾(ファットマン)投下により、約十五万人が死傷。音楽監督に小曾根真を起用した映画「爆心、長崎の空」は、日本再生へのメッセージ。



十五日 終戦記念日

1945年から、六十八年の月日が。政府主催の全国戦没者追悼式(日本武道館)は天皇皇后両陛下も臨席。戦争の意味を、あらためて、一人一人が考える時。

二十日 定家忌

平安末期の大歌人・藤原定家【1162~1241】の忌日。藤原俊成の二男。「新古今集」「新勅撰集」「小倉百人一首」の撰者として有名。墓は京都相国寺、両隣は二百年後に没した足利義政、六百年後に没した絵師・伊藤若冲の墓。「定家忌」は夏の季語



定家忌や 勤やすまず 川田順 山口誓子【1901~1994】

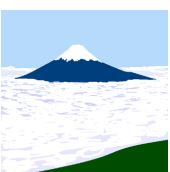
「老いらくの恋」で知られた川田順は誓子にとって「東大法学部」・「住友電工」の先輩。

二十三日 処暑

【二十四節気】：暑さも収まる頃というが。

八月の歌

ふじの山 明治四十三年 『尋常小学読本唱歌』



ふじの山

作詞者 巖谷小波
作曲者 不詳

あたまを雲の上に出し
四方の山を見おろして
かみなりさまを、下に聞く
ふじは日本一の山

六月二十二日に三保ノ松原(日本三景)を含め、世界遺産に登録された富士山。霊峰として信仰の対象とされ、北斎の浮世絵『富嶽三十六景』に「赤富士」として描かれ『万葉集』や『古今和歌集』では歌枕として詠み込まれるなど、文化・芸術の世界でも古くから親しまれた。「百人一首」の山部赤人(万葉集)の歌は、あまりも有名。

田子の浦 ゆち出でてみれば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける

青空高く そびえ立ち
からだに雪の着物着て
霞のすそを 遠く曳く
ふじは日本一の山